

第4回 総合計画審議会 会議録要旨

1 会議名

第4回 総合計画審議会

2 開催日・出席者等

開催日時 令和2年3月24日（火） 午後3時00分から午後5時00分

場所 須坂市役所 本庁舎3階 305会議室

3 出席者

(1) 委員

遠藤 守信 委員、高野 健光 委員、寺田 克 委員、西原 秀次 委員、
二タ村 朝比古 委員、永井 康彦 委員、山上 久子 委員、春原 博 委員、
神林 利彦 委員、高橋 洋子 委員、永田 繁江 委員、竹前 美枝子 委員、
（欠席）

土本 俊和 委員、遠藤 守 委員、本藤 浩史 委員、川口 千春 委員

(2) 幹事

副市長、健康福祉部長、市民環境部長、社会共創部長、産業振興部長、
まちづくり推進部長、水道局長、消防長、教育次長、議会事務局長
（欠席）総務部長、会計管理者

(3) 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員、委託先事業者SCOP（栗田）

4 配布資料

説明スライド資料

第五次須坂市総合計画体系図（参考）

バックキャスティングで将来都市像を考えるイメージ図

5 内容

(1) 開会

村石政策推進課長補佐

定刻になりましたので始めさせていただきます。

今回の進行を務めます政策推進課の村石です。よろしくお願いします。

—欠席委員連絡—

—欠席幹事連絡—

本日も総合計画策定業務支援の委託事業者である特定非営利活動法人SCOP様に同席をいただいています。

それでは、ただ今から第4回須坂市総合計画審議会を開会いたします。以降、次第に

沿って進めさせていただきます。

続きまして、遠藤会長よりご挨拶をお願いします。

(2) 会長あいさつ

会長

皆様のお手元にも事前資料として事務局から送付があったように、だいぶ基本構想も方向性が見えてきた。さらに、皆様のご意見をお聞きしながら議論を深め、今後10年間の須坂市の方向性をしっかり検討してまいりたく、忌憚のないご意見をお出しいただきたい。

村石政策推進課長補佐

続きまして次第3の会議事項に入ります。

会議事項については遠藤守信会長に進行をお願いしたいと存じます。遠藤会長宜しくをお願いします。

(3) 会議事項

① 基本構想原案の検討について

会長

それでは本日の議題に入ります。まず(1)基本構想原案の検討について事務局から説明をお願いします。

中澤副市長

本日は委員の皆様のお忙しい中でのご出席に感謝申し上げます。

事務局説明の前に、過日開催した策定委員会の簡単な報告も併せて一言申し上げさせていただきます。3月19日開催した庁内における策定委員会では、前回の審議会で皆様から大事にしたい「須坂市の価値」や「将来目指すべきキーワード」をもとに、事務局案をもとに将来像について検討をさせていただきました。

これまでも、遠藤会長からお示しいただいているように、総合計画は今の時点から10年後をとらえる「フォアキャスティング方式」ではなく、将来の「あるべき姿」、さらに言えばもっと遠い将来の「あるべき姿」・「ありたい姿」から現在に向けて遡り、今回策定を進めている計画の目標年度である2030年を「バックキャスティング方式」で検討する必要があります。10年後も、そして更にその先も大事にしたい視点として「しあわせ」や「いきがい」、またそれらの前提である「すこやかさ」や「ほんもの」、「つながり(きずな)」といった価値観がある訳ですが、内部策定委員会で検討しました結果を申し上げますと、10年後の将来都市像について、

- ・長すぎず
- ・「ありたい姿」にしばって端的に記載し
- ・誰にでも分かりやすい

ことを前提として言葉に落としこんでいくのが良いのではないかと意見が出ています。この後、事務局の説明の中でいくつかの将来都市像の案も示させていただきますが、ぜひ事務局案にとらわれずご意見や案をお出しただけですと幸いです。

今後のスケジュールを考えますと、将来都市像案については決定ではないとしても、ある程度方向性を決めていきたいと考えております。後に事務局から説明します「検討

の視点」を中心に、ある程度形をしばり込む方向性でご検討いただけますと幸いです。それでは、これ以降、事務局より資料に基づき説明を申し上げます。よろしく申し上げます。

清水政策推進課長

—配布資料について一括説明—

※説明時参照資料

- ・説明スライド資料
- ・バックキャスティングで将来都市像を考えるイメージ図

会長

事務局で作成いただいた資料「バックキャスティングで将来都市像を考えるイメージ図」について補足をさせていただく。

—「バックキャスティングで将来都市像を考えるイメージ図」説明—

(以下、会長説明要旨。)

- ・バックキャスティング方式は10年後の理想像から遡って、今後の10年間どういう行動をとるべきか考える方式。
- ・世界の趨勢を考えた際に、どんなアプローチが理想か、今までの須坂市の蓄積をどう考えるかも重要。
- ・地方都市では珍しくバランスが取れている都市。いうなれば、小粒でピリッとした山椒のような都市である。
- ・市の強みを生かしながら持続可能な都市を目指す。
- ・資料にもSDGsのアイコンが配置されているが、これらの視点も大いに含めて、市民で共有する計画にしたい。SDGs目標の達成は市民の責務でもある。
- ・SDGsのアイコンは並列表示のほうが見やすい。
- ・須坂市の特色かつ強みである「健康・福祉・医療」は資料に含めたい。
- ・工業・商業の囲み線は必要ない。
- ・「共創」は単なる助け合いではない。「協力」と「切磋琢磨」による高めあいの共存である。Co Operation&Competitionの発想。
- ・連携もちろん大切だが、自立した都市であることもまた重要。
- ・世の中が流動的でおかしくなったとしても、自立していられる都市が理想。
- ・まちが自立していることは市民の自信につながる。それが活力の原点になる。
- ・今回のイメージ図はたたき台であるが、基本構想のコンセプトが一枚の図面にうまくまとまるよう資料の精査をお願いしたい。
- ・総合計画の基本構想が「市民の心に入り込む」構想となり、その構想から市民一人ひとりが未来を描けるような構想を考えていきたい。

委員の皆さん、ご意見等はどうか。

委員

資料を見るに、言葉としてだいぶ整理できている印象。

須坂は歴史があり、会長からも説明があったように産業がバランスよいまち。

皆で共通の方向性を持って取り組むことに結びつけるような構想になれば大きな力になる。

愛称と3つのチャレンジの整合は良いと思う。愛称と整合が取れるような将来像をと

なれば、「活力ある」「豊かさ」などがしっくりくる。将来像の末尾に「須坂」を付ける必要はあまり感じない。

会長

案で言うとうとうか。

委員

案6か案7あたりがいいのではないかな。

委員

医療福祉という専門分野の立場から見ると、そうした分野は最終的に各分野別目標でしっかり考えていく必要がある。基本構想の要素の整理としてはよくまとめられており問題ない。案についてはもう少しじっくりと考えたい。

委員

資料を見て基本構想について議論が進んでおり良い。2030年の将来像は高齢者になる我々が考えていいのかという印象がある。時代変化は凄まじい。情報化も急激に進む。とにかく大きな変化がある。想定外な事への備えも必要。

表現例を見た印象では「須坂」は不要ではないか。案6が将来を担う子供たちにとっても大切な概念。行政も民間も市民も同じ目標に向かって歩みたいと思える視点。これから生きていく将来ある人の視点がうまく入るといい。

委員

10年たてば自分も後期高齢者。日本の短歌や俳句みたいなイメージで端的に都市像を表現したほうがよい。案9は短歌調で語呂がいい。

会長

必ずしも表現例にとらわれず積極的な意見を。

委員

もう少し、若年層の意見を聞いてみてもいいのでは。全体的には案のような表現にならざるを得ないだろうが、いずれにしてもみんなが共有できる将来像を。幅広く意見を聞いた上で多数をとるのがいい。

「しあわせ」は感じるものではなく作るものだと思う。そういう点では表現例の中でも受け身でない表現（能動的、ポジティブ）をしているものがある。あえて言うなら案10か案12がいい。協働で物事を進めていくという点から言えば「須坂」というキーワードはあったほうがいい。

委員

自然を感じ豊かな気持ちになる。そのことで「しあわせ」を感じる。案6がいいと思うが、「生活」という言葉は検討の余地がある。豊かな心を育てるという視点で案6がいい。

委員

構想を考える上で基盤産業に力があるかが大変重要。人口減少問題は確かにあるが、経済不安が理由という面も少なからずある。生産年齢人口減少の問題も勤め先である企業ができれば解決すること。課題として挙げられている中心市街地の賑わいや税収の不安定さも結局のところ経済の力がなければ克服できない。すなわち、結局のところ経済的な支えがないと「しあわせ」「いきがい」は実感できない「しあわせ」実現のためにも地域の産業充実が重要。会長説明の資料にもある「まちが自立」という観点

は重要だろう。

会長からお示しいただいた「孤独を防止する「やさしい」まち」の意味合いはぜひご説明願いたい。表現例の中では案6が好き。末尾の「須坂」はいらないのでは。案6も単純に「豊かで美しい生活をこのまちでかなえる」まででいい。

委員

須坂市の農業は強みでもあるが、同時に弱みでもある。農業従事者の高齢化に伴う生産力低下や農家数の減少など弱い部分もある。会長から提示のあったイメージ図では農業を強みとして捉えているが、このあたりをどう見ていくか。

また、弱み・課題でも挙げられているように、須坂市は全国的に知名度が低い。「須坂という場所は一体どこにあるのか」というイメージを持たれており切ない。ぜひとも次期計画ではイメージアップにつながるような取組みを。

将来像としては「いきがい」が入った案がいいのでは。案3や案7がいい。

委員

愛称の表現は「須坂」と「みらい」の間に空白（スペース）があったほうがいい。

会長からご提示のあった概念図は分かりやすい。SDGsアイコンは全体的に相互の施策において関連するので並列で並べていただいたほうがいい。全体的に補足の文章は付けずにすっきりとまとめたほうがいい。4ページに示された3つのチャレンジ指針が会長ご提示の資料とどう整合しているのか少し分かりづらい。

将来像としての表現例では案3、案4がいいかと思う。

委員

福祉の観点からはぜひ「女性活躍」を強調してほしい。子育てもしながら介護にやさしいまちも視点に、多くの女性に活躍してもらおうという視点をもっていただきたい。安心や人のつながりは大切。弱い人が置き去りになっている。ひきこもりも大きな問題になっている。「やさしさ」の視点をぜひ含めてほしい。表現例は自分の知人にも意見を求めてみたところ案4がいいのではないかと。若い人の視点もぜひ聞いていただきたい。

会長

「健康・医療、福祉」はぜひイメージ図に挿入を。先に委員からあった内容だが、農業出荷額は相当程度ある。一方で、ご指摘のあった農業人口をどうサポートしていくのかしっかり考える必要がある。農業と工業でも何かコラボができないだろうか。また、別委員から質問のあった「孤独を防止するやさしいまち」について、ヨーロッパでは孤独防止にかかる担当大臣がいる。孤立は社会の流れであるが、孤独はつくらないことが重要。孤独は1日20本の喫煙と同じ健康被害があると言われている。孤独を社会から追放するようなまちになるといい。その点、須坂はコミュニティが充実している、これは大きな強みである。

委員

これから10年の計画という点ではもう少し若い人の意見を聞くのがいい。「しあわせ」は感度が人それぞれ。表現に含めるかは難しいところ。

会長

豊かな人生を感じ、住むことで幸せ感を感じられるような構想で。

委員

基本構想に限らず全体的に「国際化」の視点はもつべき。外国人への対応という点においても少し視野を広げておきたい。

会長

「グローバル」というような表現はどうか。

委員

必ずしも基本構想の中ということではなく、個別施策のなかでもいい。何らかの形で表現はされるべき。

委員

案7はいい。「いきがい」という概念は大切。

会長

「しあわせ」と「いきがい」は言葉としてセットだろう。

委員

先程別の委員から提起のあった「産業が基盤」という意見に賛成。生きるすがが充足していることが活力の原点。「活力」という言葉はキーワードとなるのでは。案6を少しアレンジし、「豊かで活力ある生活」はどうか。「美しい」という表現は綺麗だが抽象的な印象が否めない。

会長

イメージ図の左上表現「選ばれるまちのための要素がバランス良くあるまち」は「活力を生む要素がバランスよくあるまち」と表現したほうがよい。工業と商業、農業と観光など結びつけ、強みをうまくリンクさせることも重要。国は「まち・ひと・しごと」を銘打って地方創生に取り組んでいるが、これからの時代は「まち・ひと・しごと＋教育」である。教育は重要。SDGsは配列を分解しないで横並びに表現する。

委員

資料8ページの基本目標1「誰もがひとしく幸せになるまち」の部分に虐待（子供、高齢者）、自殺問題等の観点も含める必要があるのでは。いのちが守られる「安全・安心」という言葉が含まれるといい。何とか言葉として入らないか。

会長

命を大切にすることは基本中の基本であり、かつ究極のテーマ。

会長

「健康・医療、福祉」はぜひイメージ図に入れられないか。保健補導員の歴史なども含められるといい。

委員

医療・福祉は、いわば一つの社会インフラ。分野別目標における一つの重要テーマであるが、今回のイメージ図では落とし込むのはなかなか難しいのではないか。行政施策の中にしっかり書いていくのが良い。

中澤副市長

将来像は「ありたい姿」。長野県や長野市の総合計画にも見られるように「しあわせ」をキーワードとして掲げる自治体は多い。目指すべき原点ではあるが、将来像として良いかどうか。様々な意見が出ているが、将来像ではなかなか言葉として表現できない視点も基本目標ではしっかり落としこんでいく予定。

会長

8ページの「次の10年でチャレンジする視点」は行政でもしっかり考えていく。基本目標3は「だれもがいきいき活躍できるまち」がいいのでは。

清水政策推進課長

基本目標については今後、表現も含め検討していく。

中澤副市長

基本目標の表現や構成については策定委員会でも様々な意見が出ている。基本目標4は環境分野、安全対策も含め適切な表現を考える必要がある。基本目標6は雇用面の施策で構成される表現になっており観光を含んでいない。このあたりも踏まえ、構成や表現を再度精査してまいりたい。

会長

環境面について言えば、SDGsの視点も大いに踏まえながら「実践できる環境市民」を目指すという面からアプローチしていくことも重要だろう。

委員

副市長からあった長野市と長野県の例を聞いて思いついたが、「いきがい」と「しあわせ」を実感できるまち須坂のような表現も良い。8ページの基本目標に関する検討は次回以降という認識でいいのか。

清水政策推進課長

お見込みのとおり。

会長

意見があればメール等でも構わないので随時事務局へ。本日はこの程度にとどめたく。

② 今後のスケジュールについて

会長

今後のスケジュールについて、事務局説明を。

清水政策推進課長

今後、日程を調整させていただいた上で4月～5月にかけて審議会を開催させていただく予定。

中澤副市長

基本構想について、本日の意見を反映しながら会長とも相談の上、事務局で案を3つか4つにしぼりこんでいく。

会長

案が固まったら意見公募を。策定過程も含め、広報活動も積極的にやっていただきたい。

清水政策推進課長

市民総合意識調査で多くの方から意見を聞いているが、若い人の意見を捉えきれていないことは事実。庁内策定ワーキンググループ等も活用しながら若年層の意見をしっかり聞いていきたい。

会長

若者は活力の原点。市の先行きを決める重要な構想であるため、ぜひとも若い人の巻き込みをお願いしたい。

委員

会議録については、委員あて通知にも単に「委員」として公開する旨の連絡がされているが、ホームページでは委員名入りで公開がされている。積極的な発言を促すという点からも非公開としていただきたい。

清水政策推進課長

委員からご指摘の点についてお詫び申し上げます。ホームページの会議録については修正を行い再掲示としたい。

会長

会議内容については以上。進行を事務局へお戻しする。

(4) 閉会

村石政策推進課長補佐

これをもちまして、第4回総合計画審議会を終了させていただきます。
長時間にわたりありがとうございました。

以上